

世田谷区立塚戸小学校
PTA 会長 高松 美佳子
家庭教育学級委員長 市橋 史子

第 1 回家庭教育学級

“家庭科は家庭から” ～見つけよう、子どものできること～

令和元年 7 月 5 日、本校の家庭科教諭 松川 智子先生を講師にお招きし、第 1 回家庭教育学級を開催しました。当日は、50 名を超える多くの保護者の方にご参加いただきました。グループワークや活発な質疑を交えながら、大変楽しく有意義な講演会となりました。一部ですが、講演内容をご紹介します。

●家庭科授業から見る子どもの姿

①手先の動き ②話の内容を聞き取る力 ③待つ力 ④状況判断をする力 … このような力の低下を感じている。自動化などで自分の手を動かす機会が減っていることや、家庭では大人同士よりも子どもの話を優先的に聞いてもらえる環境が、集団のなかで「待つ」ことができなくなっている原因の一つかもしれない。



講師 松川 智子先生



グループワークでは「自分がしている家事」を細かく書き出して「子どもにもできること」を話し合いました。

●家庭へのアドバイス

➢ 少しずつできることから始めて、「ありがとう」の一言を忘れずに

- ・低学年なら急に包丁を持たせるのではなく、食事用のナイフでソーセージを切ってもらうような簡単にできることから始めるとよい。
- ・排水溝のゴミの扱いに戸惑う子どもも多い。ゴミの分別など、抵抗感の少ないところから生活の汚れに慣れさせることも大切。
- ・子どもが家庭科の授業で習ったものを作ってくれたら、思いきり「おいしい！」とほめてあげてほしい。その子に応じて“やる気になる”ほめ方があるので、ご家庭で工夫してみてください。

➢ 家事をしている大人の姿を見せること

- ・ゲームをしている間にご飯ができるのが当たり前になってはよくない。「洗濯を干す」「ゴミを捨てる」など、家事をしているおうちの方の姿を子どもに見せる（知らせる）ことで、手伝うきっかけが生まれる。働きかけを続けることが大切。
- ・最初はおうちの方の声かけが大切。言わなくても手伝ってくれることが理想だが、まずは「何かできることない？」と考えさせること。本人のテンポやタイミングもあるため時間はかかるが、声かけを続けることで次の「やってみよう」につながっていく。

●参加した方の感想

- ◇ 松川先生に主婦、母親目線でお話しいただいて、共感できることがたくさんありました。グループの方とも家事について共有できて楽しかったです。
- ◇ 自ら動いたほうが早いのでやってしまいがちでしたが、できそうなことから子どもにお願いし、少しずつ根気よくやっていくことが大事だと思いました。
- ◇ 子どもが手伝いをしてくれても「ありがとう」のこたばを言い忘れていて反省してしまいました。楽しくゲームのように取り込みながら感謝の気持ちを伝えていきます。

★★ 第 2 回 家庭教育学級 開催のお知らせ ★★ ご期待ください！

11 月 5 日（火）講師：「子どもアトリエ・アートランド」主宰 末永 蒼生（すえなが・たみお）さん